

神戸のアーバンデザイン

『新旧比較シリーズ

百貨店の場合

(7)

(90)

—水谷顕介+チーム・UR



▲統一化のファサード



▲時代の連続性と積み重ねを本来意図していた
わけではなさうな混乱した複合様式



◀マスの中になり残された歴史。石造りのレストラン。
コーヒーハウスとして再生させたい。屋上は屋上公園
をもつアートギャラリーとでもすればマスビルディン
グのなかのオアシスとなりうる。

・巨大化の限界を感じさせる近頃の百貨店です。なにしろ広すぎて、色とりどりで、のみ込まれるばかりの物量で、人間の行動と感応範囲を越えています。災害の場合を予想すると出てこられそうになくて、入れないといった判断が先に立ちます。

・大量生産→大量消費の流れに素直に乗り切れない心情が強くなってきました。百貨店時代、量販店時代の転機がわりあい早くやってくるという実感があります。ヴォリュームとしてのショッピングビルから、市と賑いと情景のショッピングストリートへ復帰・回帰していくという予感があります。一つの要素で統一した表情をつくろうとするマスビルの手法では限界があって、時代の文化と歴史を連続させ積み重ねたストリート。アーチテクチャー（町並み建築）の実力と味が評価されるようになってくると思います。

・大丸、そごう、三越、神戸の百貨店、いずれも時代と歴史をもっています。それを現時点の一色で統一、化粧化してしまうか、それぞれのなり立ちと周囲の町の歴史まで受けとめ、ふるい起こしていくか、百貨店が生活文化のない手としての役割を存続できるかどうかの一つのポイントだとにらんでいます。

(水谷顕介)



神戸と芦屋との境にある国道沿いの古い町家

- 薬、修繕、自然食、整体療法、歯科、洗張、寿し、模型、寝具、内科・小児科、靴修理、お好み焼、美容、あんま・はり・マッサージ、自動車販売取次、金物・金網、自転車、スタンド、菓子、洋裁、手芸品、琴・三弦教授、クリーニング、たたみ、木材、といったお店が、100メートルほどの幹線道路に面した古い町家にならんでいます。「手」と「技」の職種業種が大部分を占めています。
- 昔の町のなかのお店は、商品販売の機能をもつものもちろんありましたが、どちらかというと、住人の生活そのものと健康維持および品物の維持・管理にたずさわる職業の人たちの住いと仕事場がたくさん占めていました。大量生産→大量販売のルートにのった商

品消費を手段とした商売ではなくて、共同体としての生活協力やそれに必要な品物を永く使い込むことができる親切で便利なサービスの役割をになっていたわけです。

●職住共存の古い町家一長屋なので、こういった職種が持続できている、という判断が成り立ちます。新しい建物では、こういった職種や仕事そのものがやりにくいということがありますし、家賃一経費コストそのものがバランスしなくなっています。高い家賃を払うことができるお店しか町のなかには存在しない。だから、修理屋さんがいなくて使い捨てなければならない、困った都市↔産業構造↔人間の仕事の循環です。

(水谷顕介)

☆神戸を福祉の町に(9) 上のマークは車イスで使用できる箇所にはられる国際シンボルマークです。



福祉工場の建設を

橋本 明

国鉄住吉駅の南に「神戸市立友生養護学校」という、身体の不自由な子供たちの学校がある。幼稚園から高等学校まで合わせて生徒数は二三〇名。それぞれの子供たちは身体に何らかの障害をもつていて、通学や授業はなかなか大変なことが、それにもかかわらず、子供たちにとって学校へ通うのが大変な楽しみであり、この学校を卒業することほどつらいことはないといふ。受験勉強に明け暮れている他の学校では考えられないことかもしれないが、友生養護学校の生徒たちにとっては、それほど卒業後の道はつらく、厳しいものなのである。

今年の高等部卒業生は15名だが、そのうち何とか就職できた者は三分の一の5名にすぎない。他は3名が訓練所に入り、一人が家事従事、あと6名は在宅のままとなっている。すき好んで自宅にいるわけではなく、働きたくても働ける場所がないために、いわゆる「テレビ番組」とならざるを得ないのだ。卒業生の就職が年々難しくなってきてるのは、一つには障害の重度化があげられる。軽度の場合には何とかつてを頼りに適職をさがしての就職も可能だが、介護者を必要とする障害の重い子供や、上肢の不自由な子供たち、あるいは重複障害を伴っている子供たちの場合は一般企業への就職も非常に難しいし独立して生計を立てることも困難になってくる。そういう子供たちはせっかく学校を卒業してもどこへも就職できず、友達とも離れて家の内でボツンと孤立した生活を強いられることになり、自分の将来が全く閉ざされていると考えることは、特に思春期の多感な青年たちにとっては生きる希望さえ奪われることになり、そ

した子供たちを周囲から氣づかないながら見守っている家族にとっても大きな精神的な負担となる。

こうしたどこにも働く機会の与えられない子供たちのために何とか就労の場をつくろうと、友生養護学校の卒業生や父兄を対象とした「神樹の会」では三年前から福祉工場づくりの計画をすすめている。

建設資金づくりのために父兄が中心となつて青空市場を開いたり、父兄や子供たちの作文集「センセぼく歩きたい」の販売をしたり、またさんちか広場を借りて建設基金バザーを一昨年から続けている。今までに集まつた資金は一千万円弱だが、工場をつくるとなるとまだまだ巨額の資金が必要だ。一番難しいのは用地の確保で、土地が急騰しつづけている都市部では猫の額ほどの土地でさえ確保するのは難しい。さらに障害をもつた子供たちが通勤するとなると、都市部のできるだけ交通の便利なところが望ましいので用地の確保は一層困難となつてくる。神戸市が須磨区高倉台に住宅地として開発を進める整地の一部の借用を父兄が申し込んでみたがてんてうチがあかなかつたという。そこで「神樹の会」の父兄たちは今度国鉄六甲道一住吉間が高架になつたので、その高架下の二、三百坪の用地の借用を鉄道管理局に申請中で、何とかそこに福祉工場をぜひつくりたいと懸命な努力をつづけている。

この父兄たちが目標としているのはオーストラリアのシドニーにある「センター・インダストリーズ」という福祉工場で、ここでは通信用機器の組立加工をしているが、七九四名の従業員のうち重度脳性マヒ者は一九四人、そ

の他の障害者五〇名で、全従業員のうち三分の一が障害者でありながら、他企業に劣らず、素晴らしい生産性を上げており、職業的リハビリテーションの模範として注目されている工場である。またこの工場が障害児をもつお母さんたちの力ででき上ったということでも大きな共鳴を与えた。

「障害児も一人の人間として働く喜びが味わえる

場を創りたいのです。国家の補助をもらわなくとも一人で生活していける社会にしなくては……」と、P.T.A.会長の吉田耕二さんはこの八月下旬「センター・インダストリーズ」見学のためオーストラリアへ飛んだ。

障害児のための福祉工場といわれるものは欧米にはかなりある。アメリカには民間の工場が多いが、ヨーロッパには国や地方自治体によって運営されているものが多い。その中でも日本でよく知られているのはイギリスの「レンブロイ社」で、一九四五年に創立されたこの国営の身体障害者の工場は、イギリス全土に87カ所の工場をもち、従業員総数七九〇〇人のうち90%が障害者。土地建物、機械設備などはすべて国によって準備されたが、製品の受注や販売には今は全然タッチしていないので、一般の企業と競争することになり、いきおい、良い商品を早く作ることが要請される。このため障害者といえども競争に打ち勝つため、一生懸命働かざるをえなくなる。といつてもやはり生産性は多少低くなるので、政府は従業員の給料の40%を補助している。

日本ではまだこの種の工場は少ないので、最近福祉工場づくりに力を入れる企業が少しづつ増えてきたのは嬉しいことだ。



車イスで働く身障者たち（アメリカで）

たとえば、シャープは創業者の早川徳次郎会長が福祉に関心が高かつたため、昭和25年に早川特選金属工場を創り、今では社員70人のうち半分を障害者が占め、電卓や電子レンジ部品作りに励んでいる。また沖電気工業では東京都八王子市でのプリント基板の検査作業に15人、矢崎総業でも静岡県浜北市でのガスマーケーターの組み立てに35人、立石電機が大分県別府市に設立したオムロン太陽電機では電子部品作りに67人の障害者がそれぞれ働いている。さらに松下電器は昨年の11月、和歌山市内にある重度身体障害者更生援護施設「琴の浦リハビリテーションセンター」の一角に障害者ばかりの工場を建設した。ここは、工場の建物は県と国、機械設備と技術指導は松下電器がもつというものの、34人の下肢障害者が電器部品の組立に日夜汗を流している。

兵庫県下には明石市大久保町に「明和工業協同組合」という身障者の共同経営による工場があり、この10月1日には小野市に県と山陽電機の協力で福祉工場がオープンする。またこの七月には障害者の雇用を進めるため、県経営者協会や中小企業団中央会などが中心になり、県下の四百事業所が協力して「兵庫県心身障害者雇用促進協会」も設立された。これ自体は大変嬉しいことだが、しかし、一般企業へ雇用されることがほとんど不可能な重度障害者のためには、最初に述べたように神戸市内の交通の便のよい所に福祉工場のよろうな形で共同作業の場を創り出すのが重い障害児をもつ親の念願であり、文明の責任とというものであろう。

9月25、26日の両日、友生養護学校の父兄たちはこの福祉工場を自らの手で建設するため、さんちか広場で第三回めのバザーを開く。市民のみなさんの援助をぜひお願いしたいものだ。

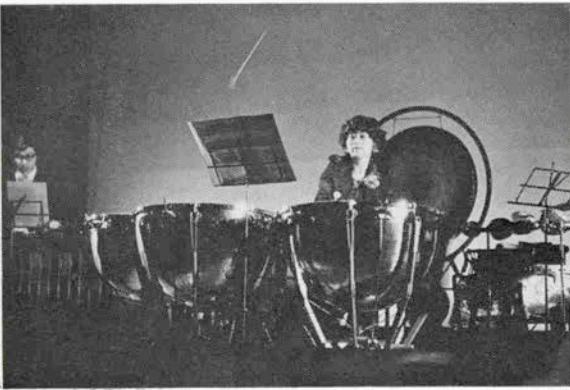
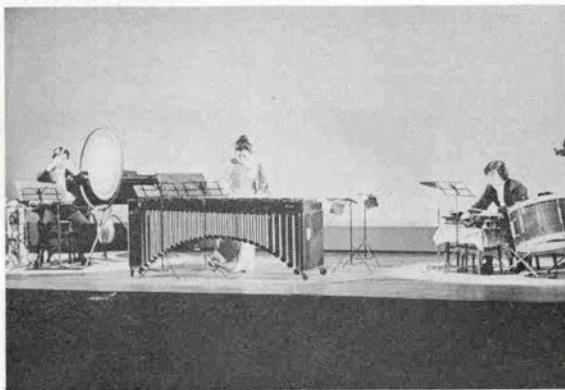
〈神樹の会〉のバザーのお問い合わせは友生養護学校

●楽しくマリンバ・パーカッション・ビブラホンのレッスンを！

大島梨栄音楽研究所 9月開所 生徒募集

〈日本木琴協会会員・日本演奏家協会会員・日本鍵盤演奏家協会会員〉

年令に関係なく幼児より一般の大人まで、クラシックからポピュラー迄のレッスン



(S49.3月2日県民小劇場リサイタル風景)

大島梨栄さんのこと
日本木琴協会阪神支部長
伊藤 実希夫

風の如く神戸へ姿を現わすがと思えば、すぐ東京へ舞い戻してしまう。これが、いつもの彼女のスケジュール。忙しいことおびただしい。

今春のマリンバ・リサイタル（県民小劇場）のときも、また6月の今岡頌子舞踊研究所公演（神戸文化ホール）にゲスト出演したときも、この例にもれずアップと言う間に東京へ。それほど東京における仕事が彼女を呼び戻してしまう。

今度は、心機一転、神戸にじっくり腰をえず、東京での五年間の音楽体験を生かして、演奏活動にまた指導に活躍したいと言ってきた。やる気充分の彼女に大いに期待している。



インドメロディ シタールの女王来日

カリヤニ・ロイ 10月3日 午後6時30分

大阪サンケイホール ¥1,800. ¥1,500.

お問合せ/大島梨栄音楽研究所まで

●マリンバ(木琴)基礎コース(幼児から一般大人まで)

○音楽の基礎的な能力(リズム感・ソルフェージュ・聴音)を身につけながら楽しく学ぶコースです。

●マリンバ・パーカッション・ビブラホン(進学希望者幼)
音楽大学受験生・指導者養成コース(・小学校先生)

大島梨栄音楽研究所

神戸市東灘区熊内橋通3丁目2-9

お問合せ TEL (078)291-0978

自宅 078(221)6294(231)2761



★神戸の催し物9月ご案内

(音楽)

★森田健作りサインタル

7日(土)①2時②4時
神戸文化大ホール S・一五〇〇円
A・一三〇〇円 B・一〇〇〇円

★浅田美代子リサイタル

8日(日)①11時半②2時半
神戸文化大ホール S・一五〇〇円
円 A・一三〇〇円 B・一〇〇〇円



浅田 美代子

★青江三奈のすべて

13日(金)6時半 神戸国際会館 民音

大衆の中から生まれ、その心中に入り込む歌をうたいつづけて十一年。女の悲しさやなさを情感たっぷりにうたう。

★ベンチャーズ結成15周年記念公演

14日(土)6時半 神戸国際会館 S・二二〇〇円 A・一八〇〇円
B・一五〇〇円 C・一〇〇〇円

★第16回神戸市吹奏楽祭

15日(日)11時 神戸文化大ホー
ル 無料

★ペレスブラーク

16日(月)7時 神戸国際会館 民音 会員・一六〇〇円 一般・二二〇〇円

★日本フィルハーモニー交響楽団

26日(木)6時半 神戸文化中ホール A・二二〇〇円 B・一五〇〇円 C・一〇〇〇円 D・一〇〇〇円

★神戸っ子読者10名様

新制作「江戸城総攻」(10月2~3日)
にご招待! 「江戸城総攻」は、『江戸城総攻』に次ぐ真山青果劇場第2弾。「江戸城総攻」——西郷隆盛と勝海舟——。ご希望の方は、葉書に住所・氏名・年令・職業・TELをお書きの上、〒550生田区東町一丁三の1 大神ビル8F 月刊神戸つ子編集室まで。先着順。

★国際ヤングフェスティバル
17日(火)5時半 神戸文化大ホール 整理券

★松浦豊明ピアノリサイタル

20日(金)7時 神戸文化大ホール A・一六〇〇円 B・一三〇〇円
○円 C・一〇〇〇円

★辻久子・バイオリンをきく夕べ

21日(土)6時半 神戸国際会館 S・一五〇〇円 A・一三〇〇円
B・一〇〇〇円 C・八〇〇円

★パンクバーコ交響楽団

22日(日)6時半 神戸国際会館 S・二五〇〇円 A・二二〇〇円
B・一五〇〇円 C・一〇〇〇円
D・八〇〇円 指揮/秋山和慶

★マイク&ティナターナー

24日(火)6時半 神戸国際会館 S・三五〇〇円 A・三二〇〇円
B・二五〇〇円 C・一〇〇〇円

★五輪まゆみ

26日(木)6時半 神戸文化中ホール A・二二〇〇円 B・一五〇〇円
C・一〇〇〇円

★新国劇「國定忠治」「人生劇場」

5日(木)6日(金)①12時半
②6時半 神戸文化大ホール A・
二八〇〇円 B・二三〇〇円 C・
一八〇〇円

★「人生劇場」 残侠篇 四幕原

作/尾崎士郎 脚色/高田保 演
出/田中林輔 出演/島田正吾・清
水彩ほか

★松竹大歌舞伎

23日(祝)24日(火)①12時半
②6時 神戸文化大ホール S・

★日本フィルハーモニー交響楽団

26日(木)6時半 神戸文化中ホール A・二二〇〇円 B・二〇〇〇円
C・一五〇〇円 D・一〇〇〇円

★神戸っ子読者10名様

新制作「江戸城総攻」(10月2~3日)
にご招待!

「頬張る」に次ぐ真山青果劇場第2弾。「江戸城総攻」——西郷隆盛と勝海舟——。

ご希望の方は、葉書に住所・氏名・年令・職業・TELをお書きの上、〒550生田区東町一丁三の1 大神ビル8F 月刊神戸つ子編集室まで。先着順。

会。シベリウス交響詩「ファインランディア」 ドボルザク「新世界交響曲」「チエロ協奏曲」短調

調 指揮/渡辺雄三 チェロ/ダニール・シャフラン

★テレマン・ブティ・アンサンブル

27日(金)7時 声乐ルナホール
一般 五〇〇円 高校生以下 三
〇円

★49兵庫県芸術祭洋舞合同特別公演

創作バレエ「リヤ王」 古典
バレエ「レ・シルフィード」

23日(月)4時 神戸国際会館
指定・一八〇〇円 自由・一三〇
〇円

★新国劇「國定忠治」

赤城天神山より小
身」に他ならない。私にとって音
楽とは私自身を表現できる唯一の
もの、まさに私を生かしているも
のである。

★演劇

5日(木)6日(金)①12時半
②6時半 神戸文化大ホール A・
二八〇〇円 B・二三〇〇円 C・
一八〇〇円

★「人生劇場」 残侠篇 四幕原

作/尾崎士郎 脚色/高田保 演
出/田中林輔 出演/島田正吾・清
水彩ほか

★松竹大歌舞伎

23日(祝)24日(火)①12時半
②6時 神戸文化大ホール S・

★日本フィルハーモニー交響楽団

26日(木)6時半 神戸文化中ホール A・二二〇〇円 B・二〇〇〇円
C・一五〇〇円 D・一〇〇〇円

★神戸っ子読者10名様

新制作「江戸城総攻」(10月2~3日)
にご招待!

「頬張る」に次ぐ真山青果劇場第2弾。「江戸城総攻」——西郷隆盛と勝海舟——。

ご希望の方は、葉書に住所・氏名・年令・職業・TELをお書きの上、〒550生田区東町一丁三の1 大神ビル8F 月刊神戸つ子編集室まで。先着順。

三〇〇〇円 CA・二五〇〇円
二二〇〇円 C・一五〇〇円

会。シベリウス交響詩「ファインラン
ディア」 ドボルザク「新世界
交響曲」「チエロ協奏曲」短
調 指揮/渡辺雄三 チェロ/

片岡仁佐衛門
「傾城反魂香・屹文」一幕
ヘンデル作曲 リコード・ソナ
タハ長調 ヴィヴァルディ作曲コ
ンチエルト 口短調 他パロック
音楽の夕べ

浮世又平/実川延若 又平女房お
徳/中村富太郎 修理之助/大谷
桂三 下女おなべ/実川延寿ほか
「廊文草・吉田屋」一幕二場
近松門左衛門/片岡仁左衛門
屋外霧/中村富太郎 吉田屋喜左
衛門/坂東好太郎 喜左衛門女房
おさき/片岡松之丞ほか
藤屋伊佐衛門/片岡仁左衛門
屋外霧/中村富太郎 吉田屋喜左
衛門/坂東好太郎 喜左衛門女房
おさき/片岡松之丞ほか

「夕霧狂言」の決
定版として、「七二二年の序節を、一
幕場にアレンジしたもの。
藤屋伊佐衛門/片岡松之丞ほか

「廊文草・吉田屋」一幕二場
近松門左衛門/片岡仁左衛門
屋外霧/中村富太郎 吉田屋喜左
衛門/坂東好太郎 喜左衛門女房
おさき/片岡松之丞ほか

「夕霧狂言」の序節を、一
幕場にアレンジしたもの。
藤屋伊佐衛門/片岡松之丞ほか

「廊文草・吉田屋」一幕二場
近松門左衛門/片岡仁左衛門
屋外霧/中村富太郎 吉田屋喜左
衛門/坂東好太郎 喜左衛門女房
おさき/片岡松之丞ほか

「夕霧狂言」の序節を、一
幕場にアレンジしたもの。
藤屋伊佐衛門/片岡松之丞ほか

エチオピアの ギヤンブラー

福岡 康年

（アフリカスペシャリスト）



▼ブルーナイルの滝にて

せつかく見つけた「エチオピアの魔法使い直撃インタビュー」の大特ダネを逃がした私は、不貞腐れて、相も変わらず、ポン・ポンハイ五円をくり返していた。こういう状態の時にはいつも考えることは、日本でも典型的な外出嫌いの自分がなんで、こんな変な場所にいるのかということである。日本で旅行といえば修学旅行だけしかない。それが外国となるとなんだかすぐそこの様に感じる。友人から夏に北海道へ行こうなどと誘われ様ものなら、とたんに風邪引きと歯痛と腹痛とおまけに水虫まで同時に起ころ。又東京で一人で放り出され様ものなら、ただおろおろするばかりである。それが外国となると、どんな所であろうと一向に不安はない。旅とは予期せぬ出来事との出会いと思っている私にとっては未知な所ほど、興味が沸き不安に思うどころか、生きている実感を味う。

そんなことを思っている日々にも、一応奇術の慰問だけはいそがしくやっていた。その中の一つに、精神病院があった。最初に電話で「……タル・ホスピタルですがやつてくれませんか」と言われた時私は、最初の……の部分が聞きとれなかつたが、まあ……タル・病院という名前だらうと思つて、すぐにOKをした。

木のがんじょうな門を入ると、どうも様子がおかしい事に気づいた。外へ行こうとする人を医者は追い立てる様に中へ入れるし、あたりを回ると、すつ裸の人達が、異様な眼でこちらを見ている。回転の遅い頭にも、やつと……タル・が「メントタル」である事に気づいたが、今更、中止する程の勇気はない。薄暗い集会場にすでに百人程の患者と数人の先生が入っていた。私が普通に英語で挨拶をするが、ちゃんと拍手をしてくれた。今まで通りのレパートリーをやつて見たが、リングを取り出しただけでゲラゲラ笑い出す人がいたり、途中で突然前へ出て来て、道具をさわりに来たりする。そのつど先生が患者をもとの席へ帰らせる。又、中に英語も話すインテリ患者は私が、医者に向つて、「誰か手伝つてくれませんか」というと彼が「私が手伝おう」と舞台へ出てくるので、断われず、「では、このロープを改めてください」とポケットからロープを取り出すと、ギヤーといつて逃げ出す。つられて他の患者も席を立つて逃げ出す始末。こんなわけで普通の時間の倍近くもかかるつて、やつと終えた時は、なんとも妙な感激があつた。終ると、数名の患者からサインを求められ、日本語で書いてやると、とても喜こんでいた。彼等は今頃この日本語をどう解説してい

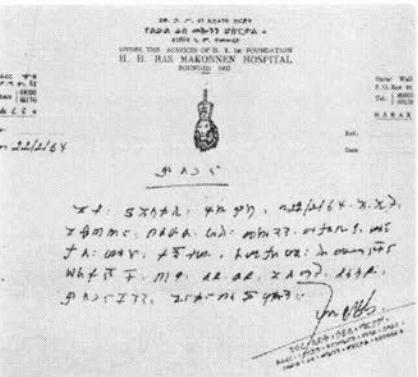
るであろうか。帰る時に私は一枚の証明書をもらつた。それには、アマハラ語で書かれてあり、未だに私は解読出来ないでいる。

そんなある日、場末のメシヤでフランス人のフランシスと出会つた。彼とはス

ーダンの列車の屋根に乗つて旅をして以来、アスマラでは居候先にころげ込むとすでに彼がいたし、現在も

また、エチオピア女性の世話になつてゐるといふ。彼の居候の技術は天才的でいつ会つても、どこかに居候している。ヒッチハイカーの天才としかいいようがない。「今ホテルに行つたら、ここだというので急いで来た。助けてくれないか」と突然言い出した。

「どうしたのだ」ときくと、彼らしくもなく、こうふんしておぼえている。そこで「今腕時計を取りられてしまつたので取返えしてほしい」「お前あの時計は、米軍にただでもらつた奴だからいいではないか」という、「いやそれが困まるのだ」忘れていたが彼は物を上手にもらう天才であつた。「実はあの時計は今の女と別れる時にやると約束したのでどうしてもいるので、頼むから助けてくれ、君しか出来ない仕事なのだ」彼はスリーカード・モンテ、というカード賭博にひつかつたのである。これは世界中で行わされており、また日本では昔は街頭で、ビースの箱を使い、三つの内一つの裏に印をつけ、それを客にどの箱に印をついているかをはつきり見せ、それから三つを入れかえ、その印のついている箱がどれかを当てさせるものである。千円はれば当ればはつた額をくれる。確率は3分の1のはずであるが、まず絶対に勝てな



病院からもらったアスマラ語で書かれた証明書。読みますか？

い。どうしてかというと、第一は客自身の眼の錯覚で、自分の眼を信じると百%当らない。第二にもし客がデータラメであつたとすると、不思議なことに、カードをのせていた台がひっくりかえり、カードは地面に落ちてしまうのでこのゲームは無効となりやりなおしとなる。この賭博にはサクラがかなりおしとなる。この賭博にはサクラがならず3・4人いる。最初、このサクラがめつたやたらと当てて、あつという間にずい分もうける。これにつられて客がはる。客がはる時にはサクラも客と同じカードにかけ負ける。客が印のついたカードにはると、サクラは、原因不明な理由で台にけつまづくのである。しかし別にサクラを使わなくても胴元に確実に有利な賭博で、私もスペインのユースで、己の目の不確実さを信じない人のために、目というものがいかに頼りないものであるかを認識させることがある。(私の場合はインチキなし)。ところで彼に力を貸してやりたいが、カードをあてる確実な方法はない。あるとするならば、これだと思ったカード以外にはれば少し確率が高くなるだけである。たとえインチキがなくともこれ程賭ける方に不利な賭博はない。

彼の熱心な頼みをかなえてやるために私は、次のような条件を出した。(一)、あそこにあるサクラ以上の人數のボデーガードをつけること。(二)、取られた時計を勝つた時にすぐ取れる様テーブルの上に出させておくこと。(三)、まず一人で行きみどおり、ボデーガードはあとから客をよそおつて行くこと。それを約束した後、私は彼に秘術のインチキを教えた。それは、人差指の腹をボールペンでよごしておくのである。それをどうやるのかは皆様の想像におまかせしよう。3日後彼が同棲していた女性に会つたら、昨日彼はケニアに向かつたと悲しそうに話してくれた。その左腕には、時計が静かに時をきざんでいた。



動物園飼育日記—100—亀井一成



ないしょ話シリーズ<21> 満月に向かったペンギン



フンボルトペンギンのヒナ。生後15日。

うだる暑さの真夏の深夜、ベンギン君、涼を求めて？

脱走。深夜の街ベンギンのこのこ。

暑さにたまらかねた、八月七日午前二時五十分頃、神戸王子動物園から一羽のベンギンが逃げだした。小さな身体をヒヨコヒヨコと、二百メートル離れた深夜の街を“納涼散歩”。ときならぬおかしな通行人？ 発見者たちはびっくり。目指した所は南の故郷の海か――。

その日の夕刊各紙が報じた見出しであつたが、「逃げたベンギン元気にしていますか」「そんなに暑がってはるのやつたら、一、二トン位の氷なら寄贈してあげまつせ」「ベンギンやつたからよかつたけど飼育係のおっちゃんしつかりしなはれや」

チクリ『ご意見』が相次いだ。

いやごもつともでございまして、『居直る』つもりはさらさらありませんが、この一羽の家出ベンギンがもたらした茶の間への話題もさることながら、18羽全部の群家族を置きざりにし、しかも單身けわしいフェンスをのり越え、しのび出たことはきっと意味深い事情があつたはずである。

□屋外ベンギンのこと

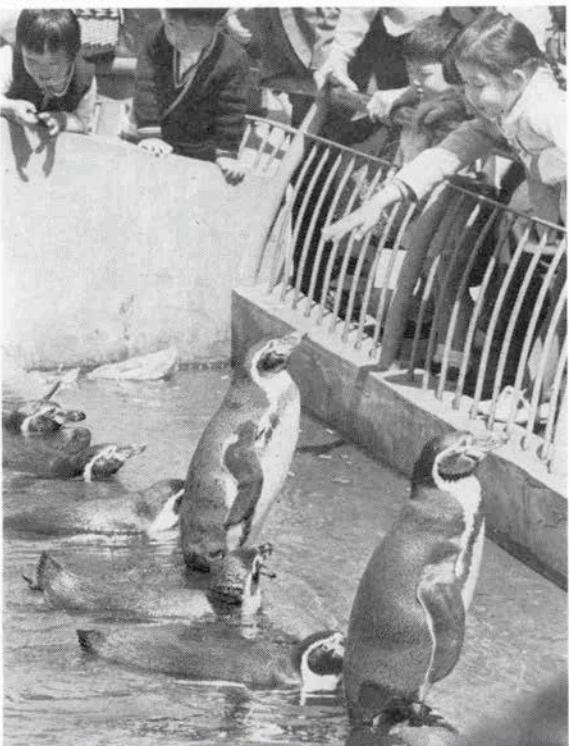
ベンギンは南半球だけに住み、しかも南極地方に広く分布しているが、わかつてているだけで17種もある。なかでもあの南極大陸に姿を見せるのは、エンペラーベンギン（身長1メートル10センチ、体重30kg、ベンギン中最大）アデリーベンギン（身長76センチ）ヒゲベンギン（78センチ）の僅か3種だけ。他のほとんどは南アメリカ南端周辺、そしてオーストラリア南端周辺、赤道直下ガラバゴス諸島に住むものまであって、ひと口に「ベンギン君涼を求めての脱走」などとは、少しばかりご説明申し上げたくなつてくる

る。

つまり暑からうと全てのベンギンを冷房室へ入れてやることが、果して適切なのか。少しでも広く、そして彼らが目指す太陽と大気を存分に与えてやりたい。そこで夏でも平気なものは、年中屋外ブールでござせ、どうしてもだめなものだけは4月と10月末までといふ一年の大半を狭くるしい冷房室でござせることにしている。

「それでも暑すぎやしませんか」

いやいや、居ごちのいいはずの冷房室での繁殖は、巣を作る小型ベンギンでは至難に近い事実があつて、年中屋外、日本の四季にも適応した幾つかのベンギンはやはり屋外ブールでの飼育下、各地の動物園で毎年のように繁殖を見ている。わが神戸王子でもまた、幾回か繁殖に成功しており、いままた、南向きベンギン池島の上の巣穴内でフンボルトベンギン二組の夫婦が卵を抱き、一羽の雛はかなりの大きさに育っているさなかであった。



このフェンスを、エイ！ とび出だんです。

□ 太陽にそして満月に向う野性……

かつて私、夏から冷房室に入れていたエンペラーベンギン5羽、アデリーベンギン2羽を冬のさなか、およそ三ヶ月、屋外ブールに出したとき、朝夕、思いきつて園内に連れ出し、雪や氷ならぬ土の上の散歩、つまり、氷上行軍。をさせてみたのである。

するとどうだろう。ブール外に出たとたんリーダーが先導し、後続者はリーダーが前伏せにこければ、みな同じ、前伏せにこけ、しかも一列綫隊、整然と歩く。しかもそれが、つねに太陽に向かう。つまり明るい方向をめざす傾向があきらかに見られたのである。以後、キンダグ、ロックホッパー、マカロニー、ゼンツーの各ベンギンについても、ブール内島の上で行動を仔細に見るうち、明るい陽ざしに白い胸をそらし、じっとたたずむ傾向がある。

ところがツルの場合、この飛ぶのに欠かせない最も大切な風切羽までが、僅か一夜で全部抜け落ちてしまう。それがため再生するまでの二ヶ月間は全く飛べないのである。

しかもその脱落時期が、ちょうど「ヒナ」を育て始めた時期と一致している。つまり、ツルはヒナを育てる間に、「飛ばない」という説に対する「飛べない」というすばらしい実証説である。

いや飛べないヒナを地上で育て、ヒナの飛び立つ時期に我が身の換羽を合致させ、ヒナと連れだって大空に巣立つて行く……という母性愛の神秘さえ感じさせる。これは有名な元上野動物園長、古賀忠道博士のツルに関する研究論文の見解である。

いま私は、巣穴で育つベンギンのヒナの成長と親鳥たちの換羽のさなかを観察するとき、ヒナの成長と換羽の合致、この古賀博士説が脳裏に浮んでならない。いや、とび出た一羽のベンギンの行動にも、「脱走」ではなく、「逃げ」と我々には知り得ない何かが秘められているにちがいない。

いや、もつともっと広大な、そして自由な環境を彼等に与えてやりたいのである。

向を知った。それに闇夜よりも、月夜にまた行動的になる傾向を認めていた。

□ 雛の成育と親鳥の換羽

哺乳動物の毛替え同様、鳥もまた羽の生えかえ、つまり「換羽」をするが、飛ぶための風切羽もまた同様抜けおち生えかわる。

トキやコウノトリ、サギ、それにカモなど飼育下における換羽状況を調べるうち、これらの鳥は左の風切羽一枚が抜ければ、対称になる右一枚がというふうに数日おきに左右各一枚が落ち、全部完了するまでに数カ月を要している。これは一度抜けたのでは、「飛べなくなる」からだ。



ふるさとを遠くはなれて、ベンギン池のベンギンたち。



きものと細貨 おんがら庵

神戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店/三宮センター街・電話 331-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)

渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)

日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)
(内線294)

池袋パルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)

おんがら庵



おもちゃの

カ
メ
ヤ

三宮方面でのお買物は...
元町三さんちか店
元町方面でのお買物は...
元町通1丁3丁目不二一家前
391-331
0 0
7 0
6 9
8 0

に391
4 0
4 5



Wanted!!

(♥会員募集中)

1. ボーイフレンド・ガールフレンド募集中のあなたは
フレンドコース

2. いそゞく(結婚)なさりたいあなたは
結婚コース

● レモンクラブには2ッコースがございます
おすすめなコースをお選びください。

レモンクラブ 事務局

代表者 山下駿児

お問合せ TEL 241-8080(代)

後援/月刊「神戸っ子」編集部

美容室井上の

ORIGINAL LIFE

あなたのヘヤーライフに新しいモードをノ



9月のお客さま／岡田美代さん（神戸文化ホール）
活動的なお仕事の岡田さんのヘヤーは、ショートカット
の楽しさの中にメッシュでエレガンシイをそえました。

美容室

井上

井上繁和・カネ子

生田区多聞通り4ノ9ノ1

TEL 341-1110



福祉時代の幕開けです
待望の
親しみやすい
福祉を考える本です

Welfare Institutions in the World

世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明 著

定価 1,000円

送料 200円

* 福祉とはなにだろう……そんな疑問に、福祉は専門家だけが考える問題ではない。市民の日常の中で考え方ようと語りかける……

貴重な福祉の道しるべになる好著

お申込みは

神戸市生田区東町113の1大神ビル8F (有)月刊神戸っ子

振替口座 神戸45196

大阪市北区梅ヶ枝町80梅新東ビル7F (株)オール関西

振替口座 大阪45083

丁子線

VOL.9 考えすぎ

岡田 淳

何がウソだというのだろうか?
おそらく、この「これ」は かんばん
自身をさすのであろう。なら
ば、これ——すなわち、このかん
ばん——すなわち「これはウソ
です」が「ウソなのであるから、
ウソが「ウソなので」とりもなあさ
ず、「これはホント」になり……。



いや、また少しこんくらがってきたぞ！
もう一度最初から考えてみることにす
るとするならばだ。仮にこのかんば
んを信じないとすると、「これはウソ
です」を信じないから「これはホント
です」になる。次に、このかんばんを
信じるとする。すると、「これはウソで
す」ということが「ウソなのだ」から、
「これはホントです」になる?????
すると？ということは？ 信じても信
じなくともホントになってしまふとい
うことは？ にもかかわらずこのかん
ばんには「これはウソです」とかか
れていろということは？ この場合、
私の主体性といったものはいったい
どうなるのであろうか。ウソがホ
ントになるのだから、きっとホントも
ウソになるのだ。いや、それは馬鹿
げでいる。そんなことを考えるのは……



しかしながら、その考え方の基本的
なスタイルは、まず前提として、この
かんばんに書かれていることが「ウソ
ではない」正しいとして考えていい、
しているのではないか？ つまり、「こ
れはウソです」ということを眞実と
して把握し、しかもべきのちに、「これ
の意味をさぐったのではないか」と
するならば、その根本的な姿勢に
まず問題があるのではないか？ 私は
まず「これはウソではない」とう
えたものが「これはウソです」という
かんばんで「あったとすれば……」



そんなことを考えるのは…… 考えない。考えます。考える
考えるとき、考えれば、考えろ、くそったれ！ 考えるとい
うことは、どういうことだ？ というのだ。だまれ！ いっせい
わらは何を考えているのだ。そろだ“ウソだ”。これ
が“ウソだ”って？ ちくしょめ、ホントじ“やないか。
ホントがウソで、ウソがウソだから、そのウソは
ホントになるのだ。そのウソ、ホント？ さやあおう。
ウソがホントになるのだから。ありあり、はべり。
いまをかり。ふきゅるっぽらひづれ まみりおん。



バクチ好き

竹田 洋太郎 〈在ニューヨーク〉 え・たかはし もう



ニューヨーク・メッツといえは、いうまでもなく地元の野球チーム・ジエッツといえはフットボールのチーム、ネットといえはバスケットボール。これに加えて「ニューヨーク・ベッツ」というものがある。文字通り訳すると「ニューヨークは賭ける」となる。

なんということはない、実はこれ、場外馬券売場の広告のキャラチフレーズ。オフ・トラック・ベッティング、略してOTBはニューヨークの市民の生活に根をおろしているかのようだ。

場外馬券売場といつても、神戸に一つあるようなものとはちょっと異なり、全市に百三つとかある。だから、バスター・ミナルや地下鉄の大きな駅はもちろん、おもなビルの一角にはたいていあるといつていい。まるで郵便局などみだ。

OTBの長官というか総裁といふか、これは州の重要なポストであり、この人事も新聞のニュースになる。だが、なぜこんなに多く売場があるのか。これは米国の人でなくともすぐに想像がつくはず。

競馬はもちろん米国人の大きな楽しみで、競馬場へ行くのは気晴らしであり、社交であるが、競馬場にい

ない人のためにはノミ屋がある。このノミ屋という存在、アメリカの小説によく出てくる、愛嬌のある人物が多いが、これを組織しているのはいうまでもなくギャングの大ボス。「私設場外馬券売場」は堂々たる構え。これは説明しなくとも、映画「ステイニング」をごらんになった方はおわかりのはず。

このノミ屋のバッコに手を焼いて、いつそのこと公営でノミ屋以上の組織をつくればいいじゃないか、というのでできたのがOTBというわけ。神戸では場外馬券売場を移転するといえば、予定先が反対する。これは、やたらに人が集まるからで、神戸市内に五つもおけば混雑しないと思うがいかがですか。

ところで今年は去年のような三冠馬「セクレタリアート」のような話題がないので、ちと淋しい。そのうえ、OTBの馬券に5%の税金がつくことになった。予想新聞はOTBをもじって「オン・ターフ・ベスト」、競馬場こそ最高という。

こう書くと私もOTB通いしているのかと思う方もいるかも知れないが、ベッティングは私にとって最も縁遠い存在なのだ。それでも書くというのは、アメリカ人の

賭け事好きに巻き込まれたからかも知れない。

そこでノコノコ出かけたのは、日本はない（昔はあつた）トロット、繫駕競走場。第一レースは夜八時、といつても緯度が高くて夏時間だから、空はピンク色。日本の競馬場にあるような興奮はあまりなく、トラックはライトに照らされて美しく、スタンドは夫婦や恋人同士が静かにすわっている。観衆が立ち上るのはラストスレッチの二、三十秒間だけ、という優雅なもの。帰宅は午前二時といふことになつた。

OTBは金をあずけておいて、電話で張ることもできる。これがノミ屋の「遺産」だろうが、それに加えて、週末夜の十一時から三十分、このトロットをテレビで放送するから、電話で馬券を買い、テレビを見ながら楽しめるという仕掛けである。

もつとも、トロットは馬に最高スピードを出させるわけないから、いつも八百長が問題になる。だから警察は定期的に騎手などを検挙する。マタカ、であつてだれ

も気にしない。まことにノンビリしたもの。アメリカ人の賭け事好きといつても、日本の競馬のように、全国のサラリーマンが興奮するということはない。つまり賭けは生活の、あるいはレジャーの一部になり切つていて、別のことではないんだろう。

その証拠に、教会の横には、必ずといっていいほどBINGOと書いてあり、定期的に信者が集まり、賭け事で淨財を集める。もつとも日本だって富くじは昔神社仏閣がやつたものだが。

日本のテレビ番組「がっちらり買いましょう」によく似た番組もあるが、計算よりも賭けの要素が強く、当たれば一万ドルくらいの品物、例えば自動車二台くらいをどんどんくれる仕組み。

ニュージャージー州の海岸にある有名な保養地アトランティック・シティは往年の魅力がない。昔ここへ休暇をとりにいったような人は、いま、みな海外旅行をするからのようにだが、そこで考えついたのは、この場所に限って公認のトバク場を作つたら、お客様が集まるのじゃないかと、州議会で議論が出てる。もちろん本当にバクチがしたければ、ラスベガスへ行けば年中できるが、ニュージャージーから車で行けて一泊となると、アトランティック・シティはずつとはやるのじゃないかという人がある。

さてそれなら、バクチ好きのアメリカ人、ニクソンの彈劾がされるかどうか、こうしたことに賭けているかといふと、実のところ、今年のはじめごろから、ほとんどの米人はウォーターゲート事件にウンザリ。新聞は下院司法委員会やあちこちの裁判の詳報を毎日のせるし、テレビも大きく時間割いていたが、はつきりいって、重大なことだけはだれもが思っているが、マスコミが扱うほどは人も気にせず、まあ、なるようになるさ、と思つている。これではバクチの対象になりようがないのだろう。



ニクソンは疾走したが……

「犬の生活」から 55年ぶりに見た

淀川長治（映画評論家）



チャップリンの「犬の生活」三巻は、たしか神戸の新開地の錦座（にしきざ）で見たと思う。

「犬の生活」（一九一八）は、チャップリンがミューチュアルという会社からファースト・ナショナルという会社に移っての第一作である。

ところでファースト・ナショナルの作品は、すべて新開地のキネマ俱楽部で上映されていた。おかしい。そう考へて、気がついたのはキネマ俱楽部は大正活映（かつい）という日本の新しい映画会社の作品を封切つするよ

職を求めて職も無く、食事を求めて食事もとれぬ宿無しの放浪男と……疲れくたびれ、食もなく飼い主もなく、それでも生きている犬と……雑草のごとき生活の哀れさ。実感と詩情をこめ。



うになつたときに、その大正活映といつしょにファースト・ナショナル作品をも上映の契約をしたのだった。そしてその大正活映（これを略して大活と呼んだ）の第一作「アマチュア俱楽部」をキネマ俱楽部が封切つたのが大正九年。なるほどチャップリンの「犬の生活」は大正八年（一九一九）日本封切だから、やっぱり錦座で見たわけだ。この大正八年にはチャップリンの「担え銃」三巻も見ている。これはまちがいもなく錦座で見た記憶がある。それでチャップリンの「サニー・サイド」三巻からキネマ俱楽部で見たのであろうか。これは大正九年の封切だからである。けれども、どうもこれも錦座で見たようだ。

なぜこのようなことにこだわるかというと、私ごとで恐縮なのだが、私はこの大正八年に「映画」にとりつかれた。エルモ・リンクカーン主演の「ターザン」、ドロシー・ダルトン主演「ユーロンの俠妓」、モーリス・ターナー監督作品「ウーマン」。これが実はすべて錦座で封切られ、あけて大正九年のデミル監督の大作「男性と女性」これもまちがいもなく錦座で上映された。すると私の映画入学一年、とうよりも映画の悪魔を私の



チャップリンとその犬は貧乏人（？）同士、弱者同士。

全身にしみこませたのは思えば……錦座であった。

ところでチャップリンの「犬の生活」は私は大正八年当時十歳……これ以来今日まで不思議なことに一度も見ていません。

チャップリンは短篇時代のキーストン作品とエッサネイ作品とミュージカル作品は早くから再上映を許可しているが、ファーブル・ナショナル作品八本のうち「キッド」六巻以外は、たしかチャップリン自身はそのブリント（フィルム）を再上映させていない。

それをこんどファーブル・ナショナルの「犬の生活」「担え銃」「キッド」「のらくら」（日本再上映にこれは『ゴルフ狂時代』と邦題を変えるそう）「偽牧師」を初めてチャップリンは再上映に踏みきつた。それもチャップリン自身が作曲の音楽を加えて。

話が長くなつたが、そういうわけで私は「犬の生活」を錦座で見ていいなんと……五十五年ぶりに、まるで初めてのよう、見たのであるが……感激しつばなしであつた。

職を求めて職も無く、食事を求めて食事もとれぬ宿無しの放浪男。このチャップリンのファーブル・シーンから目が画面に釘づけとなつた。そのみすぼらしさが実感

その顔つき。

この犬の名はスクラップス。チャップリンはこの犬を助けた。貧乏人同士、弱者同士、犬もまたそれを知るごとくチャップリンに抱かれ、職無きチャップリンはこのスクラップスを抱えて、職さがし。

ところである家の前に牛乳ビン。チャップリンはとびついてそれをスクラップスに。
けれども牛乳はそのビンの底にホンの少し、こびりついたホンのひとなめくらい。けれどもチャップリンはスクラップスを抱きしめてその口さきに牛乳ビンをさかさに振つた。犬は舌であわててヘロヘロ。けれども牛乳はビンの底からたれて流れはしなかつた。スクラップスはカラビンの口のまわりをヘロヘロ。そこで考えたチャップリン。その犬のシップボ欄んでギュッと牛乳ビンの底へ押しこんだ。そのシップボでビンの底の牛乳を撫で廻し、そのシップボをスクラップスになめさせる。犬はわがシップボをうれしげになめてまたしゃぶる。

チャップリンはすばらしい。なんというこのシーンの『愛』。そしてなんという貧しさの中のたくましいアイディア。

と詩情の二つを持ち、雨に風に生きぬく弱く貧しく、しかもたくましい雑草の哀れが見事に描かれていたからであった。さて話し変つて（というチャップリンらしい画面転換演出）……ここにこんな野良犬が……

というその犬の初登場のシーンがこれまた詩であった。疲れくたびれ食もなく飼い主もなく、それでも生きて、腹をすかして、腹をすかせたまま眠つて、さて朝を迎えて、さて今日はどうしようかという……その犬の顔、その犬の表情。チャップリンがその犬に化けたようなその犬のさびしくも

貧しく、尾を振ることすら忘れたごとき、